

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名
代表者名 三浦 康宏

以下のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 8 年 3 月 1 1 日提出

活動年月日	令和 7 年 1 0 月 8 日（水）～ 1 0 月 1 0 日（金）	
氏名	三浦 康宏	
用務先 及び 内 容	1 1 0 月 8 日	用務先 神奈川県 横須賀市 内 容 ふるさと納税に関する取組について
	2 1 0 月 9 日	用務先 栃木県 宇都宮市 内 容 第 8 7 回全国都市問題会議 1 日 目
	3 1 0 月 1 0 日	用務先 栃木県 宇都宮市 内 容 第 8 7 回全国都市問題会議 2 日 目
	4 月 日	用務先 内 容
	備 考	

政務活動視察報告書

報告者：三浦 康宏

視 察 日	令和7年10月8日（水）
視 察 内 容	ふるさと納税に関する取組について
視 察 者	三浦康宏

＜横須賀市の概要＞

横須賀市は神奈川県南東部に位置する三浦半島の北半分を占め、市域の東側は東京湾（浦賀水道）、西側は相模湾に面し、東京湾唯一の自然島である猿島も行政区域に含まれる。中央部は山間部や急峻な丘陵部が中心で平地は少ない。そのために古くから海岸線の埋め立てが行われており、現在の中心市街地も大部分が埋立地にある。また海岸沿いまで山が迫る地形のためトンネルが多いのも特徴で、神奈川県にある道路・鉄道トンネルのおよそ半数が市内に集中している。三浦半島の中心都市であり、市内の行政・経済的都市機能が集中する東京湾岸には大工場や住宅群がひしめきあうが、相模湾岸には自然が多く残され農業も盛んである。東京湾の入口に位置するために江戸時代から国防の拠点とされ、戦前には大日本帝国海軍横須賀鎮守府や横須賀海軍工廠を擁する軍港都市として栄え、幕末には市内東部の浦賀にペリーが来航したことで有名。現在もアメリカ海軍第7艦隊・横須賀海軍施設および海上自衛隊自衛艦隊・横須賀地方隊および陸上自衛隊武山駐屯地・久里浜駐屯地や航空自衛隊武山分屯基地などの基地が置かれており、かつての軍都・軍港としての名残を多く残す。



面積：100.80 km² 人口：367,293人

＜横須賀市 ふるさと納税に関する取組の経緯＞

制度開始当初から寄付額は大きく伸びない状況が続き、また都市部の自治体である横須賀市は人口規模の大きさから市民が他自治体へ寄付することによる税流出が増加、R1年度の差し引き額が－4億円、2年度が－5億円、3年度が－6億円、4年度が－7億円と、年々赤字が深刻化しており、寄付受入額の拡大が行政運営上の重要なテーマとなっていた。こうした背景を踏まえ、市はふるさと納税の推進体制を見直し、寄付拡大に向けた取組を、2年で寄付額10億円を目指し、R5年度より本格化させた。

＜横須賀市 ふるさと納税に関する取組の概要と特色＞

まず体制として、R5、4月、経済部に「ふるさと納税企画担当課」を設置し、11課20名でスタート、またふるさと納税アドバイザーとして、元楽天ふるさと納税事業部の山田穂高氏を採用し、連携チームの若手職員にふるさと納税に関するノウハウ、トレンドや民間のマインドを注入する勉強会を毎月実施するなど、人材育成も合わせ、

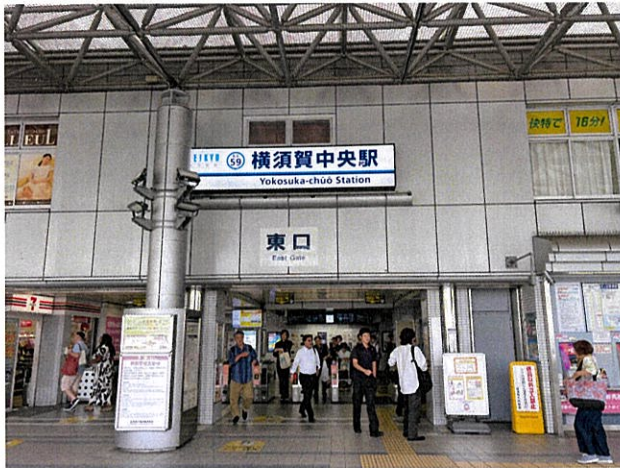
戦略策定、営業同行、事業者向けのセミナー実施など様々な役割を担った。

取組の概要として、まず挙げられるのが返礼品の大幅な拡充である。市内事業者への働きかけを強化し、地域の特産品や加工品、体験型サービス等多様な返礼品を開発した。具体的には、海産物や地元グルメ、加工食品、地域体験など、横須賀の地域資源を生かした商品を増やすことで寄付者の選択肢を広げた。また返礼品の提供事業者も積極的に開拓し、市内企業の参加を促進することで地域経済への波及効果も図っている。この結果、返礼品の種類はR4の262からR6は1,445に、提供事業者数はR4の66社からR6には144社へと大きく増加し、寄付者にとって魅力的なラインナップが形成された。

次にふるさと納税ポータルサイトの運用改善である。横須賀市では、寄付者が閲覧するポータルサイト上のページ内容を見直し、写真や説明文の質を高めるなど、商品の魅力が伝わるよう改善を行った。具体的には商品写真の撮り直しやストーリー性のある紹介文の作成、検索しやすいカテゴリ設定など、一般的な電子商取引（ECサイト）の手法を参考にしたページづくりを進めた。これにより寄付者が返礼品を選びやすくなり、寄付の増加につながった。

以上の取組の全てにアドバイザーが関与しており、特にふるさと納税寄付額拡大に向けた戦略、ロードマップの整理、KPI（重要業績評価指標）の設定管理と改善策の検討、最新動向やトレンド、他都市の動向等を踏まえた返礼品の開拓・改善・PRなどの職員教育など、その働きは多岐にわたり、大きな効果をあげている。

その結果として、R6年度は前年比164.8%の寄付額7億2,365万円、寄付件数は前年比177.1%の17,701件で、初の実質収支の黒字化を達成している。



〔感想・岡崎市への反映〕

本市は令和6年度のふるさと納税の寄付額が3億円に対し、流出が18億円と、大きく15億円ものマイナスとなっており、ホームページにて「ふるさと納税によって、岡崎市の財政への影響が生じています。」と市民に紹介までしている状況だ。横須賀市も危機感を持ってその改善に本腰を入れ、①地域産業の活性化と財源確保を同時に目指し、返礼品の拡充を通じて市内事業者の販路拡大を支援するとともに、寄付額の増加による財源確保を実現し、ふるさと納税を地域経済政策の一環として活用している、②プロ人材を採用し、ポータルサイトの改善やマーケティング手法の導入など、民間企業のノウハウを活用することで、自治体単独では難しい専門的な運営を可能にしている、③地域事業者との連携を重視し、返礼品の開発にあたり、市内企業との協力関係を構築、地域資源を活用した商品づくりを進め、これにより寄付拡大だけでなく、地域ブランドの発信や事業者の売上向上にも寄与している、以上の3つに力を注ぎ、短期間での成果に繋げている。まずは本市も本気でこの大きなマイナスを取り返す体制を早急に整えたい。

政務活動視察報告書

報告者：三浦 康宏

視 察 日	令和7年10月9日（木）・10日（金）
視 察 内 容	第87回全国都市問題会議
視 察 者	三浦康宏

<宇都宮市 第87回全国都市問題会議の概要>

テーマ：「成熟社会の都市のかたち
～コンパクトで持続可能なまちづくり～」
会場：宇都宮市 ライトキューブ宇都宮

第1日目

9:30 開会式

9:50 基調講演 人口減少・成熟社会のデザイン
京都大学名誉教授 広井良典

10:50 主報告 人口減少社会に対応する都市の構造改革
～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～
栃木県宇都宮市長 佐藤栄一

13:10 一般報告 「縮充」発想による公共施設マネジメント
東洋大学国際 PPP 研究所シニアリサーチパートナー 南学

14:30 一般報告 都市縮小時代の持続可能なまちづくり
～人がつどい 未来に躍動する 世界都市・高松～
香川県高松市長 大西秀人

15:30 一般報告 次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり
早稲田大学理工学術院教授 森本章倫

第2日目

9:30 パネルディスカッション
成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～
コーディネーター
埼玉大学大学院人文社会科学部教授 内田奈芳美

パネリスト

(株)みちのり HD 代表取締役
グループ CEO 吉田元
まちなか広場研究所主宰 山下裕子
北海道室蘭市長 青山剛
鳥取県米子市長 伊木隆司

11:50 閉会式



<基調講演>

「人口人口減少・成熟社会のデザイン」 京都大学名誉教授 広井良典

キーワード

- ・ 幸せはローカルから ・ 若い世代のグローバル化の先のローカル化
- ・ 一極集中から少極集中を経ての多極集中へ
- ・ ないものねだり→あるもの探しへ ・ 分散型社会へ
- ・ ウォーカブル・シティ（歩いて楽しめるまちづくり）
- ・ 外国人が日本に来て一番困る（驚く）のは、座る場所（ベンチ）がない
- ・ ローカリゼーション ・ 経済循環
- ・ ポスト情報化（デジタルの先の展望）

<主報告>

「人口減少社会に対応する都市の構造改革」～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～ 栃木県宇都宮市長 佐藤栄一



佐藤栄一宇都宮市長は2004年以来6期にわたり、「ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を柱としたまちづくりを進めてきた。これは、人口減少や高齢化が進む中でも持続可能な都市を形成するため、公共交通を基軸に都市機能を集約し、拠点同士を交通ネットワークで結ぶ都市構造を目指すものであり、その代表的な施策が次世代型路面電車である宇都宮ライトレール（LRT）の整備である。LRTは市中心部と東部地域を結ぶ新たな公共交通として整備され、2023年に開業した。これにより自動車中心だった都市構造を転換、公共交通を利用しやすいまちづくりを進めている。また中心市街地の活性化や居住誘導、地域拠点の整備なども進め、都市機能を効率的に配置することで利便性の高い都市形成を図っており、現在は「スーパースマートシティ」の実現に向け、「人」づくりの取組と「デジタル」技術の活用に関心をもち、更なる発展を目指している。

<一般報告>

『「縮充」発想による公共施設マネジメント』

「都市縮小時代の持続可能なまちづくり」

「次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり」



<パネルディスカッション>

「成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～」

[感想・岡崎市への反映]

今回の都市問題会議は例年以上に得るものの多い内容だった。何と言っても会場にも発着するLRTをはじめ、宇都宮のまちを歩くことで会議の内容が実感を持って理解できた。人口減少社会を受け、成熟社会に向け、ネットワークを駆使したコンパクトシティを目指す自治体のあり方を、交通施策も含め本市も大いに研究し活かしていかなければならないという危機感を抱く2日間となった。